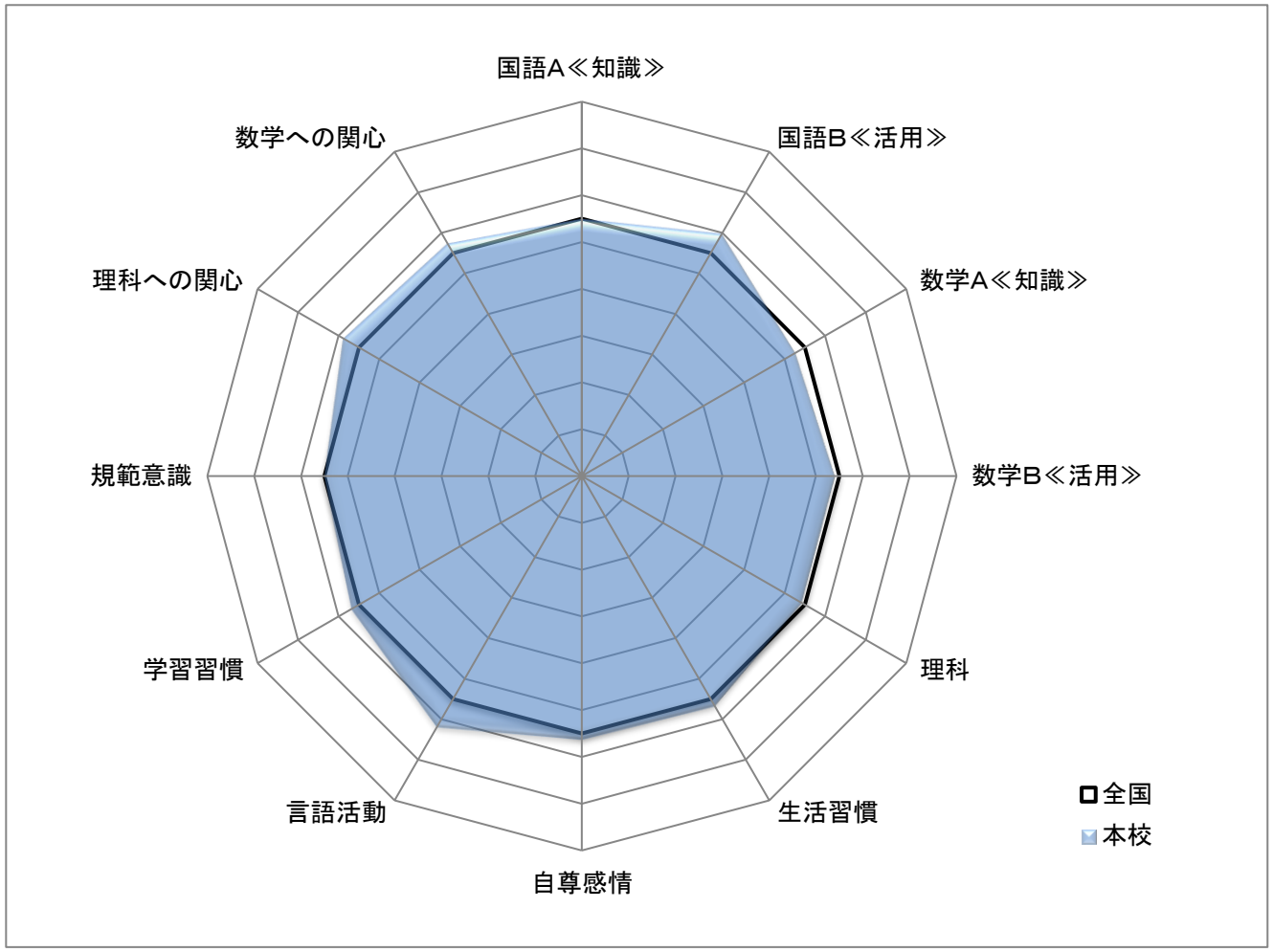
平成30年度全国学力・学習状況調査結果における課題分析表（中学校）

江戸川区立瑞江第二中学校

●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

本校が推進している「協同的な学び合い」により、コの字型授業や4人グループによる話し合いなどの授業を行っている。本学年はこの調査での「言語活動」の項目が高く出ており、これらの活動がよく身についていることがわかる。これが国語の「活用」の能力につながっていると考えられる。また、数学、理科においては、教科への関心はあるが、知識の積み重ねができておらず、基礎の繰り返しが不足している現状がある。生活習慣、規範意識、学習習慣については平均的に身についていると言える。

《授業改善のポイント》

①各教科や学活、総合、道徳などで互いの考えを伝えあう活動に加え、自らの考えや集団の考えを発展させていく学習を多く体験させることにより、言語活動の充実を図る。また、これらのことを通して、思考力、判断力、表現力等を育てる。
②ベーシックドリルや各教科のワークなどを活用し、基礎基本の定着を図る。
③「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業デザインを構築し、生徒に還元していく。

《チャートの特徴》

①国語、数学への関心の値は平均的で、理科への関心が高い。
②「知識」の項目が全国を下回っている。これは昨年度にも見られた傾向である。
③言語活動、国語「活用」の項目の値が高い。
④生活習慣、自尊感情、学習習慣、規範意識の項目においては平均的な値である。

《家庭・地域への働きかけ》

家庭学習の習慣づけを通して「授業改善のポイント②」で示した「基礎基本の定着」をねらいとした取組を行う。また、各学年で長期休業中のに、基礎基本の反復を意識した課題を工夫する。